第２号　川越市立川越第一中学校　令和７年６月２日（月）発行　TEL 222-1204

一中だより

学校教育目標
自主・練磨・敬愛

目指す学校像「笑顔と活力あふれる学校」　～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

「紫陽花」

校長　　岡島　一恵

６月に入りました。梅雨の花として代表的な「紫陽花（あいじさい）」。紫陽花は、「七変化」とも別名で言われるほど、色が変化する花で知られています。その原因の１つは、紫陽花が育つ「土」にあるとのことです。育てる場所やその年の土の状態（酸度）によって花の色を変えることができるのだそうです。私は、子育ても、学校の教育も同じだと感じています。それは、親の、教師の考え方や価値観が、自らの行動を通して子どもに伝わり、子どもの行動に大きな影響を与えるということを強く感じることがあるからです。

誉（ほ）めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世はいいところだと思えるようになる
※ドロシー・ロー・ノルト詩「子は親の鏡」より

娘が幼い頃、叱ってばかりの私の子育てを心配した私の母が、ドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」という本をプレゼントしてくれました。著者の詩である「子は親の鏡」を読み、当時、親として、自分の娘への接し方について、深く考えさせられたことを今でも覚えています。親や教師の言葉や態度は、紫陽花の育つ土なのだと思います。川越第一中学校は、今後も家庭や地域、学校が「和気あいあい」とした環境の中で、子供たちの「よさ」を伸ばしていける場となるよう、三者が一層の連携・協力を図れるよう取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

＊＊

感動の体育祭！～応援ありがとうございました！～

去る5月23日（金）に第79回体育祭が実施されました。生徒たちは、スローガン「輝積」の下、各団が、熱い想いを込めた団旗を掲げ、それぞれが優勝を目指し、仲間を励まし、支え合い、学校全体が一体となった感動的な体育祭でした。

下は、５月の学校朝会で、私が生徒に話した内容です。参加した生徒全員にクロムブックで感想を寄せてもらいましたので、その一部を紹介します。

皆さん、おはようございます。今日は5月8日。入学式、始業式から１ヶ月がたちますが、新しい環境には慣れましたか。心を揃えるかのような靴箱の「靴そろえ」、落ち着いた朝の静かなスタート「朝読書」、黙々と取り組む「洗心無言清掃」、給食後全員で取り組む「歯磨き」、他にも、校内を見回ると気持ちの良い挨拶や会釈、熱心に集中して参加する授業の様子など、他校に誇れるべき皆さんの姿は、正に一中にしかない「ブランド」だと感じています。これに甘んじることなく、更に自身を成長させるべく、高みを目指してほしい　と思っています。さて、今日は学校教育目標の一つである「敬愛」について話しをしたいと思います。先日皆さんは授業で「人権作文」を書いたと思います。「人権」とは、人として当然のこととして保障される、生まれながら全ての人がもつ「自由、平等」の権利であり、日本国憲法においても「すべて国民は個人として尊重される」と定められていますので、これが守られない事は、憲法違反ということになります。でも、「個人を尊重する」とはいったいどのようなことでしょう。私たち人間は、体、顔、声、得意なこと、苦手なこと、そして考え方等、その数だけ存在し、実に多様であり、誰一人として同じ人間は存在しません。「個人を尊重する」とは、自分との「違い」に対する「寛容（受け入れる優しい心）」であり、それぞれが多様な存在として尊重されること、それは正に、人を大切にし、よりよい人間関係を築く「敬愛」の精神に通ずるものです。皆さんは、どんな事について、あるいはどのような経験を踏まえて、どのような思い、考えで、「人権作文」を書いたのでしょう。そして、あなた方の現在の行為は、その内容に伴ったものでしょうか。振り返ってみてください。最後に、皆さんに紹介したい「絵」があります。これは、星野富弘さんという人が描いた「くちなし」という花の絵です。星野富弘さんは、中学校の体育の先生でしたが、体操部の部活動の指導中に事故で頸椎を損傷し、首から下の運動機能を失ってしまいました。「くちなし」は、手も足も動かなくなってしまった星野さんが、自分の生きる道として、入院中にベッドの上で、筆を口でくわえて文字と絵を描くことを始め、多くの作品を作り続けてきた作品の一つです。この「くちなし」の絵には、星野さんが作った詩が添えられています。「鏡に映る顔を見ながら思った　もう悪口を言うのはやめよう　私の口から出たことばをいちばん近くで聞くのは　私の耳なのだから」悪口を言った自分の顔の表情を鏡で見て悲しくなったのでしょう。自分の嫌な言葉を一番先に聞くのは自分…。自分の発する言葉は、決して耳をふさぐことはできない。星野さんの詩は、「人を大切にすることは、言葉を大切にすること、そして、自分も大切にすること」と教えてくれているようにも思えます。今月２３日に行われる体育祭。仲間を大切にし、熱く、温かい取組を期待しています。

人権についての話で、クチナシという詩が出てきました。その詩を聞いて悪口は、相手を傷つけるだけでなく、言っている自分も傷つけるのだなと思いました。これからは、相手を傷つけず自分も傷つけないように思いやりのあふれる楽しいクラスを、作っていきたいなと改めて思いました。１年間一中の一年生として頑張ろう！と思いました。　１年1組　〇〇〇〇

私は朝の朝会の話を聞き、とても素敵な作品だと思いました。特に絵に書かれた文章は短いものだったけれど気持ちが伝わってきて良かったです。　１年3組　〇〇〇〇

校長先生が読み上げてくださった「詩」について、確かに自分が発した言葉はどうやっても聞かないことはできないし、もし悪いことを言ったのであれば、周りだけでなく自分も傷つくことになると改めてわかりました。　１年5組　〇〇〇〇

くちなしの話を聞いて自分の言葉を一番近くで聞くのは自分だから自分が言われて嫌なこと、誰かにとって不快なことは言わないようにしたいなと思いました。
また、「くちなし」というタイトルにも理由があると感じて、口なしという漢字を当てれば傷つくことを言わないという意味になるし、朽ちなしという漢字を花の絵にかけて当てれば人を大切にすれば朽ちない(失敗しない)という意味にも解釈できて含みがあることでその人にあった感じ方ができるのがすごいなと思いました。　２年2組　〇〇〇〇

悪口を言ってはいけないということは当たり前で何度も習ってきているけど、「言われた人が嫌な思いをするから」という理由だった。今回のお話にあった詩では「一番近くで聞くのは自分だから」とあり、すごく納得した。言われた側はもちろん、自分もその言葉を聞くのだから、他人にも自分にも不快な思いをさせないために悪口を言ってはいけないと改めて思った。　２年4組　〇〇〇〇

今朝の朝会の話を聞いて私は、「人を大切に想う心」を感じることができました。星野富弘さんのことは以前から知っていましたが、『くちなし』のことは知らなかったので、とても勉強になりましたし、心に残りました。特に、「私の口から出たことばを　いちばん近くで聞くのは　私の耳なのだから」の一節にはっとさせられました。体育祭に向けた練習では、互いの意見がぶつかりあって収拾がつかなくなることもあります。しかし、人を大切に想うと同時に自分のことも大切にしながら、温かい人間関係をつくっていきたいと思えました。　３年2組　〇〇〇〇

星野さんは小学校の頃に一度だけ美術館に行きましたが、本当に口だけで書いたとは思えないような作品がたくさんありとても感動したことが頭に残っています。今回の「くちなし」という作品は本当にその通りだなと思わせられる作品でした。人間誰しも嫌なことがないわけではないので口からマイナスなことがでてもしかたがないかとも思ったことがありました。しかし、今回の作品で嫌なことを言って一番最初に聞くのが自分の耳と言われ、これほど虚しいことはないだろうなと気付かされました。　３年5組　〇〇〇〇

星野さんが書いた絵、そして、詩。その内容や意味を含めて話している校長先生の話を聞いて、「悪口」というのは、言ってしまったら、ずっと自分の耳や頭、心のなかでずっと残り続けるのだなと思いました。また、相手の悪口を言ったら、自分にも必ず返ってくる…という話を聞いたことがあるので、校長先生の言っていた話を絶対に忘れずに、学校生活を楽しみたいと思いました。　１年2組　〇〇〇〇

「くちなし」の詩の悪口を言った時に「一番最初に聞くのは自分だから悪口を言うのをやめよう、相手を大切にすることは自分を大切にすることにもつながる」という言葉が心に残りました。だから僕もいじめや悪口を絶対に言わない、やらないようにしたいです。　１年4組　〇〇〇〇

クチナシの絵についてぼくはすごく共感できました。悪口を一番最初に言って一番最初に聞こえるのは自分で自分が嫌な思いをするし周りの人も嫌な思いをすると思いました。それとは別に＋の言葉を言えば自分もいい思いをするし周りの人もいい思いをすると思いました。なので日常でもーの言葉ではなく＋の言葉を発したいです。　２年1組　〇〇〇〇

くちなしの事について、たしかになと思いました。悪口は、自分にいっているのと同じだなと思いました。「情けは人の為ならず」というけれど、逆もまた然りだと思いました。悪いこともめぐりめぐって自分に返ってくるのかもと思いました。　２年3組　〇〇〇〇

星野さんの「くちなし」は、絵はすごくきれいだと思ったけれど、詩のことを聞いてみてなんだか悲しいと思い、星野さんの人生や生き方などがすごく出ていると思ったのと、なぜクチナシの花を選んだのか、なぜそうおもったのかを考えたら、詩と絵どっちも合わせて人も自分も大事にしようというメッセージが込められていると思いました。　３年1組　〇〇〇〇

「悪口を言うのはやめよう、一番最初に自分が聞くのだから」のことについて、僕は確かにそうだなと思いました。人は誰しも愚痴ったり悪口を言ったりするけど、結局その言葉を一番先に聞くのは自分自身だなとこの話を聞いて思いました。
そのため今後は何かを言う前に少しは考えてみようかなと思いました。　３年3組　〇〇〇〇

悪口を言って一番傷つくのは自分だと言うことについて、そのとおりだと思いました。自分もイライラしたときに悪口を言ってしまいどんどんマイナスな方に気が落ちてしまうことがあるからです。なのでこれからは、気がマイナスなときにこそいいことを言えるようになりたいです。　３年4組　〇〇〇〇

星野さんは自分には思いつかないような人生を楽しむ考えを持てていてすごいと思った。じぶんが星野さんと同じような状況だったら、あんなに素晴らしく美しく、洗練された言葉は出てこないと思う。口だけであんなに素敵な絵がかけるのも驚いたけれど、それよりもそんな状況であの考え方ができるのはそうとうな努力をされてきたんだと思う。　７－3組　〇〇〇〇